

明けまして おめでとうございます

平成22年元旦 みつわ会東北支部

松島 S.Tomohiko

北風に赤提灯の揺れどほし 圭舟



「今日を大切に」 支部長 加藤徹三

“謹んで新年のお慶びを申し上げます”このフレーズ、今までは相手方だけに向けて、慣例的に、形式的に使っていましたが、しかしこの所、会員のみならず、近い人の訃報に接する事が多くなってきて、これは相手にと同時に、自分に向けての言葉でもあるのではないかと、思う様になってきた今日この頃なのであります。

成り行きで、NPO法人「マンション管理組合連合会」のお手伝いをする事になり、それなりに楽しんでいきます。関わる事になって、マンションの建物や設備の劣化と、住人の高齢化の問題が常に付きまといまいます。つまり、30年後には、そして40年後は、どうなる、こうなる、どうしようか、という事ですが、自分だけの立場から見れば、それはどうでもいいことであって、見えるのはせいぜい3年先とか5年先なのです。頭の中で人生設計をする若い人と違い、ここに来て、自分の遠い将来を想像しようとする拒否反応がおきます。交通事故で重傷を負った人の中に、衝突の瞬間の痛みを感じる前に意識が失われていた、と言う人がいるのに似て、感じたくないものや見たくないものを避ける様に、自衛本能が働くのかもしれない。

有り難くもまた新しい年頭を迎えて、将来はさておき、今日こそが大切な時間であり、ボヤっとしては勿体ない、出来る限り、脆弱な体と乏しい頭を働かせて楽しもうぜ、と思うところです。そうやる事が功を奏して、もしかして幸か不幸か心身共に若返り、どこまでも長生きする羽目になっても、それはそれでめでたいことだと思って諦めるしかありません。

ではあらためまして、「明けましておめでとうございます。新年の慶びを分かち合いたいと思います。今年も今日を大切に」



21年度忘年会

12月12日 午後5時20分「なごみ食堂」

★月替わり御膳、飲み物1時間半飲み放題★

参加12名。いつも必ず参加する筈のメンバーの内、不参加が2名。そして珍しく何年振りかの長井さんと、久しぶりの西村さんと2名が列席。左、いつもの変り映えしない写真ですが、中身は結構賑やかでしたよ。

ヴォランティアまた楽しからずや

星 利夫

一日と寒さが募ると外に出るのが億劫になる。それでも日課は省略するわけにはいきません。定年後にさしたる仕事があるわけではないが、週日を中心に日本語アドバイザーのスケジュールをこなさなければならない。たまたま市の広報の片隅に、在留の外国人のために日本語を教える人の養成講習会への募集要項を見つけて参加したのが切っ掛けで、現在は、仙台市国際交流協会と宮城県国際交流協会の登録ヴォランティア日本語教師として動いている。といっても火曜日に決まっている日本語相談室の例会の外は、個別レッスンとして、外国人学習者とお互いの日程に合わせてレッスン日を設けるので束縛感はない。

日本語相談室に集まる外国人は多様で、中国人、韓国人、モンゴル人（国籍がモンゴル人民共和国と中華人民共和国のモンゴル自治区に分かれる）、バングラデシュ人、インド人、インドネシア人、ヴェトナム人、インド人、イラン人、台湾人、更にドイツ、イギリス、ロシア、エストニア、ポーランド、アメリカの人々、そして中学生

から大学生、院生、研究生、主婦、サラリーマンなど人種、職業も多種である。最近では中国人と韓国人が多い。ここ2、3年の特徴をあげると、アメリカ、イギリス人のほかに、ポーランド、エストニア、ラトビア、リトアニア所謂バルト3国そしてロシアからの女性が目立つ。日本の男性が国際的になり、奥さんを任地からともなってくる例が多いということである。戦後60年たつ現在、正に昭和は遠くなりにはけり、である。中でも生まれは、サハリンスク、ウラジオストクといわれると戦中、戦後のかすかな記憶が走馬灯のごとく脳裏を駆け巡り、ただいま20、30歳代の彼女らには、平和なロシアと日本があるだけと納得した次第。この相談室は、ヴォランティア教師にとって、ある意味で武者修行の場である。どのような学習者に当たるか、共に到着順なので、初心者か中級者か、主婦か学者か宣教師か工作車運転手か学生かも解らない。女性ヴォランティアは、その点当意即妙である。臨機応変に対応がスムーズである。比較的男性は、そうはいかない。なんと

く構える。特に女性に対しては先ず独身か；学生かそれにより話題を手探りする。要するに女性ヴォランテニアは、自然体で臨む。例えばこうである。「今日は寒いわねー。ここにはなんで来たの。」とヴォランテニアが聞く。「今日は自転車 came ました。」と答えれば、日本語初級修了以上の力があり、同時に服装、話す態度などまた服装を見て、学生か、アルバイトをしているか等が大凡解る。質問が自然体なのである。いずれにしても私にとって初心に還る道場である。

個別レッスンは、相談室とは違いヴォランテニア教師にとって自身の得意分野、趣味嗜好に添ったテーマをとることができる学習者を選ぶことができる。もっとも、ある程度このような段階に至ったのは、ここ二、三年前からでありあまり誉めたことではない。ここまで来るには、フィリピンの医学生で東北大学医学部矯正歯科の院生が宮城国際交流協会のU指導講師の紹介によるものが最初である。このM君は、フィリピンでは、地主階級の母をもち、祖国ではすでに歯科医として開業して多分、上層階級に位置していたものと思われる。これを皮切りに、オランダ系アメリカ人当時40歳代のSさん、この場合は、彼の選択に合わせて「JAPANESE FOR BUSY PEOPLE」を使用し、当方の英語力の復活にも役立てた。漢字の学習にも手を染め、一定の日本語力に達した後は、日本の文化をテーマに話題を広げ続けたが、その5年の間に、東北大金属研究所の情報科学専任助教授となっていた。現在オラン

ダの大学の教授となっているが、夫人が日本人であるので年に2、3回は、来仙し、今も時折会っている。

個人レッスンの学習者も、来仙する外国人の人数に影響を受けるのは当然で、因みに一例として東北大学の留学生の在籍を見ると、2007年の国別在籍数は、1179名中、中国485名42%でトップ、次いで韓国193名16%、モンゴル45名4%、東南アジアでは、マレーシア、インドネシア、タイ、ヴェトナム、台湾、各々3%であるが、近ごろ目立つのは、イラン、ロシア、ラトビア、エストニアの若い女性たちで、日本人男性の夫人である。どうも日本人の夫は、概して、帰国すると勤務時間が長くなり、勢い帰宅時刻が遅くなる。したがって、一般的に夫婦会話が少ないため、夫人たちは、日本語学習のために当教室に出席する仕儀となる。そのために、待機学習希望者が増加し、なかなかヴォランテニア日本語教師に巡り合えない。現在、個人的に指導してる留学生は、当初は宮城県国際協力協会、仙台市国際交流協会の紹介によるものだが、現在の3名は、前の学習者が帰国の際に紹介していった人たちである。

いづれもその当時は、中国人の大学卒業の研究生（大学の研究室に出入りができて大学院入試の指導も受けることができる）であるが、モンゴル自治州出身の教育大学・音楽教育専攻志望の女子学生、東北地区出身の経済学部医薬経済学専攻志望の男子学生、他の一人は、中部都市出身の文学部宗教学専攻志望の女子学生の3名である

が、紹介された当初は、以前に経済学部でも医薬品関連・音楽部専攻や、文学部専攻学生の指導はなかったこともあり、大学院受験の準備のための日本語指導については、自身の経験のためにも取り組んでみようと考え、その合格後に指導の引き受けを決めることにしていた。

三人について、ここで述べれば、長くなるので、文学部宗教学志望のF学生に絞って話をしてみる。

F生は、中国の有数のTN大学日本語学部において日本語、日本文化（歴史、文学、その他一般文化）などを、修得しているが、当該大学事務当局、教授、先輩などの周辺情報、インターネットによるブログその他のメディア（北京市には、T大学の出先機関がある）を通じて、T大学が自身の進路に好適と判断し、仙台への渡航手続きを進めた。

ここからが面白い。在仙台留学生のブログを調べて、Iなる研究生が目にとまったという。

彼は、南京周辺のN体育教育大学を卒業して来日、体育教育学修士課程を修めるために、自身に相応しい大学の選定を兼ねて、日本語の習得に懸命であった。が、ブログに載っているI君がF生の目に留まったのだ。どんな点に興味を惹かれたかは聞き洩らしたが、たまたまI君は、T大修士課程を修了したW君の紹介で私が指導していた学習者であった。

I君の話を含めて総合するとこうなる。2009年1月のある日、レッスンが済ん

でから、次回のレッスンはお休みにして下さいという。「中国の学生が、その日に仙台空港に到着するので迎いに行かなければならないのです。」というので、「知り合いの人ですね、良いですよ。」と答えたところ、「いいえ、知らない人です。紹介も受けていません。」という。

内心驚いたが、アメリカに数回行って、サンフランシスコ、ロサンゼルスなどの主要都市には必ずと言っていいほどあるチャイナタウンの中華料理店で、好きな料理を楽しもうと中に入って見ると、店内は中国人と思しき庶民と言いたいぐらいの人々が料理をつまみながら談笑している。中国人以外に外国人が一人もいないというのも、おかしい。アメリカの都市のレストランに白人がいない。そして注文を承るのは中国語一辺倒のボーイのみ。この光景が頭をよぎる。中国人の郷党意識といった思いが頭をよぎった。

そして、休みの日の翌週、レッスンが済んだ後で、空港に出迎えた二人の女子留学希望者の顛末を問わず語りに話してくれた。車の中で「それではどこへ行きますかと」と二人に問うと「決まっていません。」という。二、三の問答の後、I君のアパートの一室があいていることを思い出して、大家に電話了解をとりそれを仮寓先とする。部屋に落ち着く暇もなく、I君は宿さがしである。幅広い交遊関係に対する空き間情報の緊急支援依頼のメールを打つ。彼は、来仙する間もなく留学生と日本人の学生を中心としたバスケット・ボール・チームを立ち上げた青年である。六畳二間・四畳半一間

にキッチン・トイレ・シャワー室付きで4万5千円の部屋がすぐ見つかる。一人2万2千5百円の家賃となる。更に、冷蔵庫、電気ストーブ、机、椅子の調達である。これも、I君の情報網ですぐ無料で確保する。友人の車を借りた、I君の無料搬送により備え付け完了である。このようにして彼女らは、次のステップ、ともにT大学院受験の手続きに専念することが出来たのである。

I君の彼女達に対する最後の仕事となったのは、日本語教師の紹介である。最後というのは、日頃彼の祖父が、早く帰国して、父の絹織物の貿易の仕事を手伝ってくれとの要望を言い続けてきたことと、仙台

の大学院で彼の進路に相応しい学部を見出すのは難しいと考え帰国に、新しい道を開こうと決心したからである。F学生を紹介するにあたって、日本語学部で磨いてきた日本語は、日本人と見分けがつかないほどに流暢です、というのでI君の立ち会いで会って見ると、まさしく外国人、いや中国人に見られる特徴がない。ともかく専攻を聞くと文学部で宗教を専攻するとのこと。何をどのようにアドバイスするか、選ぶ教材は何にするか、など今後の対応については、少々時間をかけて双方ともに意欲的な向上が持てる形を求める必要があると考える。以下次号とする。・

(続3) 理事長さんの日記

10月16日(金) 御留守ですか～

例の大学病院前のチサンマンション(またかい!!)で火事があった。焼けたのは一戸だけで大事にはならなかったが、他の住人、特にお年寄りの世帯が留守なのか、寝ているのか、理事長や防災委員が不安だったようだ。そこで留守の際にはドアに「出かけています」のワッペンを貼ることにしたという。理事会でこの話をしたら賛否両論だった。少々のことでも人に干渉されるのを嫌う人はいる。この辺がマンションでも難点の一つ。

10月17日(土) テレビインタビュー

修繕計画が不十分な老朽マンションをテーマにしたマンションセミナー。終りかけたころに、管連の小菅さんが寄ってきて「今日の内容についてNHKのインタビューがあるので、加藤さんが応じてやって下さい」という。

会場の隅にテレビが来ていて、カメラの脇にいる学生アルバイトみたいに若いアナウンサーが「私の方を見て応えて下さい」というので、やや緊張しながら、約10分のインタビューが終了。「クローズアップ東北」という番組で放映されるようだ。

10月21日(水) ピアノ

このマンションの使用細則では、“構造体を損傷するおそれのある重量物”の搬入を禁じていて、搬入する際は理事会の承認を必要としている。本物のピアノ(電気ピアノでない)を購入しようと思っているのですが、という



相談があったので後学のために調べてみると、床の場合、設計基準では1平米あたり200Kg～300Kgとなっていた。ピアノは常識的にも重さは全く問題ないのだが、入り口が狭くて入りきれず、吊ってバルコニーから搬入しようとしたが、費用がかかり過ぎる、ということで、結局諦めることになった。

10月29日（木） 罹患状況

1102号桜井さんから幼稚園の児が新型に感染しましたとの申告有り。
「だるそうにしていたので医者に行ったら新型だと言われたのですが、熱も高くないし症状も軽く、ほとんど治っている状態なので、申告しなくてもいいかなとも思ったのですが」と言っているの、あるいは他の住人の中に、似たような症状の感染があっても申告しない人がいるのかもしれない。



掲示板には、日毎に罹患状況を○日○日現在まで「感染 人」「治った人 人」「未治癒 人」という表で掲示することになっている。

「折角(?) 申告して頂いたの、今日の所は“感染一人”にして、2～3日変化がなければ“治った人一人”にしておきましょう」と、どこか医者が診断する様な妙な具合に決まった。防災訓練にしても、新型にしても、今のところ深刻さは無くてのどかなものだ。

10月30日（金） 機械式駐車場のチェーンフック

基盤を上下するチェーンが切れたり外れたりした場合に備えて、基盤が下部に収納されている車に落下しないように、一収納箇所の四隅にフックがある。その一個がはずれて富士ダイナミクスから担当者が来た。これまた10年過ぎているから更新をという。“チェーンは切れないことにして”、目視で外れそうなのを都度交換しようという乱暴な結論でシャンシャン。

10月31日（土） 役員選考会

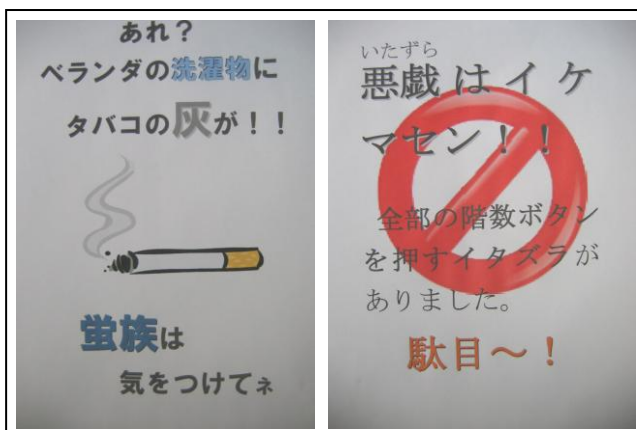
午前10時、ノミネートされた22名の候補者の中から5名を選ぶ選考会。出来るだけくじ引きは避けたいと思っていたので、予め目を付けておいた候補者を指名して受諾の意向を聞いたところ、一人残らず驚くほどすんなりと決まった。

2年目になる5名の役員と併せると、隠居3名、高齢主婦1名、若い主婦1名、現修繕委員のサラリーマン1名、高年の団体役員で現防災委員1名、中年現女性防災委員1名、学校の先生1名、監査役に現副理事長の銀行員。

ご隠居の中村さんと山本さん2人はまだ60代のサラリーマン上がりで、人付き合いもまあまあだし、次期理事長への引き継ぎも旨く行きそう。修繕委員の高川さんは、水道関係の会社務めなので配管設備の相談を。地震が近いかもしれないという名目で現防災委員の二人を。銀行の検査部の佐藤さんは監査役で言う事無し。と、まあバランスのとれた強力なメンバーが出来た。欲を言えば、急逝した1級建築士の一戸さんが惜しまれる。

11月7日（土） パネラー

仙台シルバーセンターで、管理組合の役員70名ほどを対象にしたマンション管理セミナーがあり、4人のパネラーによるパネルディスカッションがあった。今回のテーマは「やってみよう自分たちのマンション管理」。管連の小菅さんから、パネラーになって何でもいいから話をしてくれと言われていたので、大規模修繕の修繕期間中、月毎に住民に配布した“修繕瓦版”8部と、掲示板やエレベーターに掲示する見易い“お知らせ”を数枚、「マンション内での広報の仕方」という尤もらしい題名を付けてスクリーンに映しして披露したところ、これが思いのほか好評だった。今回はそれほどの中身では無かったのだが、ややこしい内容のものでも、難しい言葉は使わないで、易しい表現で、先ず目に訴える方法が話す側も聞く側も楽。



11月10日（火） マンションの法律

管理会社から、「定例総会が始まる前に、毎年管理組合に提示する「重要事項」の説明会を行いたい」と申し入れがあったので、総会案内と併せて案内したところ、住民から、わざわざ説明会を開かなくても、配布してもらえばそれでいいのでは、との問い合わせがあった。「マンション管理適正化法」という法律があり、その中の「管理適正化指針」に、“前年の内容に変更が無い場合”には配布、“変更が有る場合”は説明会が必要、とある。今回は、清掃点検業務の中に“湧水槽”3文字の追加だけなのだが、真面目で遵法精神旺盛な管理会社ではあった。程度ということもあるだろうに、法律とは厄介なものでもある。一応、条文の箇所を貼っておいたが、多分誰も全部は読まないだろう。

11月16日（水） 1年点検

修繕業者と東北管連の修繕担当者による、大規模修繕後の1年目点検。大小合わせて17か所の修理箇所があった。屋上のアスファルト防水補修を除けば、あとは何年か放っておいても良さそうな小さなものなのだが、保証期間内で無料なので、全部手入れをすることにした。管理組合というものがあって、一定のルールに基いて行われるからその点は安心。



11月28日（土） 定例総会

今回は8月の臨時総会で難題がクリアされた事と、次年度役員が予め公表された事のせいもあってか、出席者が22名と極めて少ない。議事録では、出席者数と委任状提出数併せて93%だと威張っているが、あまり感心出来るものではない。

尤も、総会は平穩であるに越したことはない。偽装設計や老朽化などで、建て替えるのか、修繕するのか、などという問題に直面したマンションは、ちょっとやそつとではま

まり様が無い現実がある。ここも、あと40年も経てばこうした問題に直面するわけだが、幸いにも、そこまで長生きしないことを祈る必要もなさそう。

12月3日(木) 異音

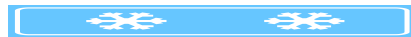
1001号若林さんが、エレベーターが上下するたびに妙な音がするというので、試乗してみたが異常は感じられない。念のため10階から乗ってみると、動き出した直後に4秒ほど「キューン」という微かな音がする。他の住人は気にしてはいないし、別に故障というほどの大げさなものでは無いと思われたが、日立ビルシステムの担当者呼んだ。

「急に気温が下がるとこういうこともあります」とニコニコしながら「油をさしておきましたから」といって帰って行った。音も収まって一安心。が、いずれエレベーターも懐を脅かす脅威となる怪物なので、いつまでもニコニコという訳にもいかない。

12月16日(水) 新年度第1回理事会

旧役員5名と新役員5名の初会議。欠席1名というのは上出来。「井戸端会議の積りで参加して下さい」と挨拶してからそれぞれが自己紹介。今年度の事業予定を確認すると特に今年中に急ぐ課題も無い。メンバーも今までにないまともな(?)顔が揃ったので会も上々の滑り出し。調子に乗り、毎年余している組合運営費を消化することを目指して、次回理事会は新年会を兼ねて「なごみ食堂」で開催することを提案したら全員異議なし。

今年度理事会、暴走の兆しあり。



———— 1月の行事 ————

	支 部	みちのく損保
1月21日(木)	※昼食会「しゃぶ禅」12時	
27日(木)		みちのく新春セミナー5時30分 国際ホテル2F平成の間“西”

※出席の連絡を1月15日(金)までに、友彦さんか、東北業務の伊藤さんまで。
尚、みちのく27日、支部28日の連チャンになるので、今回は**第3木曜日**としました。

次回支部便りは2月末ごろ発行予定です。では良いお正月を。

